

【資料編】

資料①	「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり」ネットワーク （愛称 芥川倶楽部）趣意書・・・・・・・・・・・・・・・・	12
資料②	芥川倶楽部構成メンバー（規約改定承認後）・・・・・・・・	13
資料③	芥川倶楽部企画会議メンバー等・・・・・・・・・・・・・・・・	14
資料④	基本構想案策定の取組み経過・・・・・・・・・・・・・・・・	15
資料⑤	その他部会等の取組み経過・・・・・・・・・・・・・・・・	16
資料⑥	活動実績（主なもの）・・・・・・・・・・・・・・・・	17

資料① 「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり」ネットワーク (愛称 芥川倶楽部) 趣意書

高槻市を北から南に縦断する芥川は、ボンボン山北面及び檉田の里山から水を集め、田園地域を通り、丘陵地から沖積平野部に広がる新旧の市街地を抜け、約24kmを下って淀川に注いでいます。途中には摂津峡で知られる自然のV字溪谷があり、市街地にも近く、自然環境を残す貴重な場所として親しまれています。

芥川周辺にはかつて亀岡から淀川に物資を運んだといわれる南北に走る明智街道が、東西には西国街道が通り、高槻は古い村々を中心に発展してきました。そこには四季折々の豊かな自然環境があり、寒天づくりや酒づくりなど伝統産業を残しながら田園都市として発展してきました。

昭和30年代に入り近代工場等の誘致により、現在のJR沿線に工場が出来、かつ大阪京都の中間に位置するという立地条件のよさから急速にベッドタウン化し、昭和40年代には人口が急激に増加しました。このころから芥川の中下流部の水質悪化が目立つようになりました。山間部の開発による森林緑地の裸地化は芥川への土砂流出の遠因となり、沢山あった淵はほとんど埋まってしまいました。

その後、進められた排水規制や下水道整備、都市農業における低毒性農薬への切り替えなどに伴い芥川の水質が改善し、上流に押しやられていたホテル前線が中流域に戻ってきました。

また、主として洪水対策として進められてきた河川改修により、芥川に近寄り難い構造も一部にはありましたが、自然再生が叫ばれる中、親水空間も随所に整備され、再び人々が水辺に憩いを求めるようになってきました。加えて、淀川においても大阪湾から遡上する天然アユが数万匹観測され、芥川の最下流の落差工においてここ2年続きで遡上アユが確認されています。このような自然回復の兆しをより確実にするため、芥川の豊かな生態系を取り戻し、それを次代に引き継いでいくことが今こそ必要なことだと考えます。

大阪湾～淀川～芥川を遡上する天然アユをシンボルとして、現在の芥川がさらに地域の人々に親しまれる川になると共に、魚や野鳥たちをはじめとする多様な生き物が自然なかたちで棲むことが出来るようサポートしたいと考えています。具体的には現在よりも豊かな生態系の回復を目指して、芥川の自然、歴史を守り育て、市民と芥川に触れ合う機会を作り、生き物との触れ合いを通じて、市民の心の豊かさを回復する。そんな芥川を目指し、多くの人々とネットワークを構築していけたらと願っております。

呼びかけ人	兵庫県立大学教授	中瀬 勲
	水生生物保全研究会	紀平 肇
	大阪工業大学教授	綾 史郎
	(社)高槻観光協会	岡山 雅彦
	大阪市水道記念館	横山 達也
	高槻シティマラソン常任委員	中川 修一
	nature works	小村 一也
	川いい会	石山 郁慧
	たかつき環境市民会議	
	大阪府	
	高槻市	

資料② 芥川倶楽部構成メンバー（規約改定承認後）

■役員

- ・代 表：たかつき環境市民会議 田口 圭介
- ・副 代 表：(社)高槻市観光協会 岡山 雅彦
淀川管内河川レンジャー 中島 敏明
- ・会 計：高槻市市長公室総合政策室 林 裕二
- ・会 計 監 事：高槻シティマラソン常任委員 中川 修一
- ・環境教育担当：たかつき環境市民会議 山崎 文男
大阪府環境情報センター 馬場 玲子
- ・広報啓発担当：nature works 小村 一也
たかつき環境市民会議 中山 香代子
川いい会 石山 郁慧

■団 体

たかつき環境市民会議、高槻ライオンズクラブ、高槻グリーンライオンズクラブ、
高槻やまぶきライオンズクラブ、高槻中央ライオンズクラブ、
高槻オーリーブライオンズクラブ、芥川美化奉仕会、芥川漁業協同組合、
こいのぼりフェスタ1000推進協議会、(社)高槻市観光協会、
大阪府、高槻市

■アドバイザー

兵庫県立人と自然の博物館副館長・兵庫県立大学教授 中瀬 勲
水生生物保全研究会 紀平 肇
大阪工業大学教授 綾 史郎
水道記念館 横山 達也
京都大学防災研究所 武藤 裕則
芥川緑地資料館 高田 みちよ

■世話役（事務局）

大阪府及び高槻市

■オブザーバー

国土交通省 淀川河川事務所

(敬称略)

資料③ 芥川倶楽部企画会議メンバー等

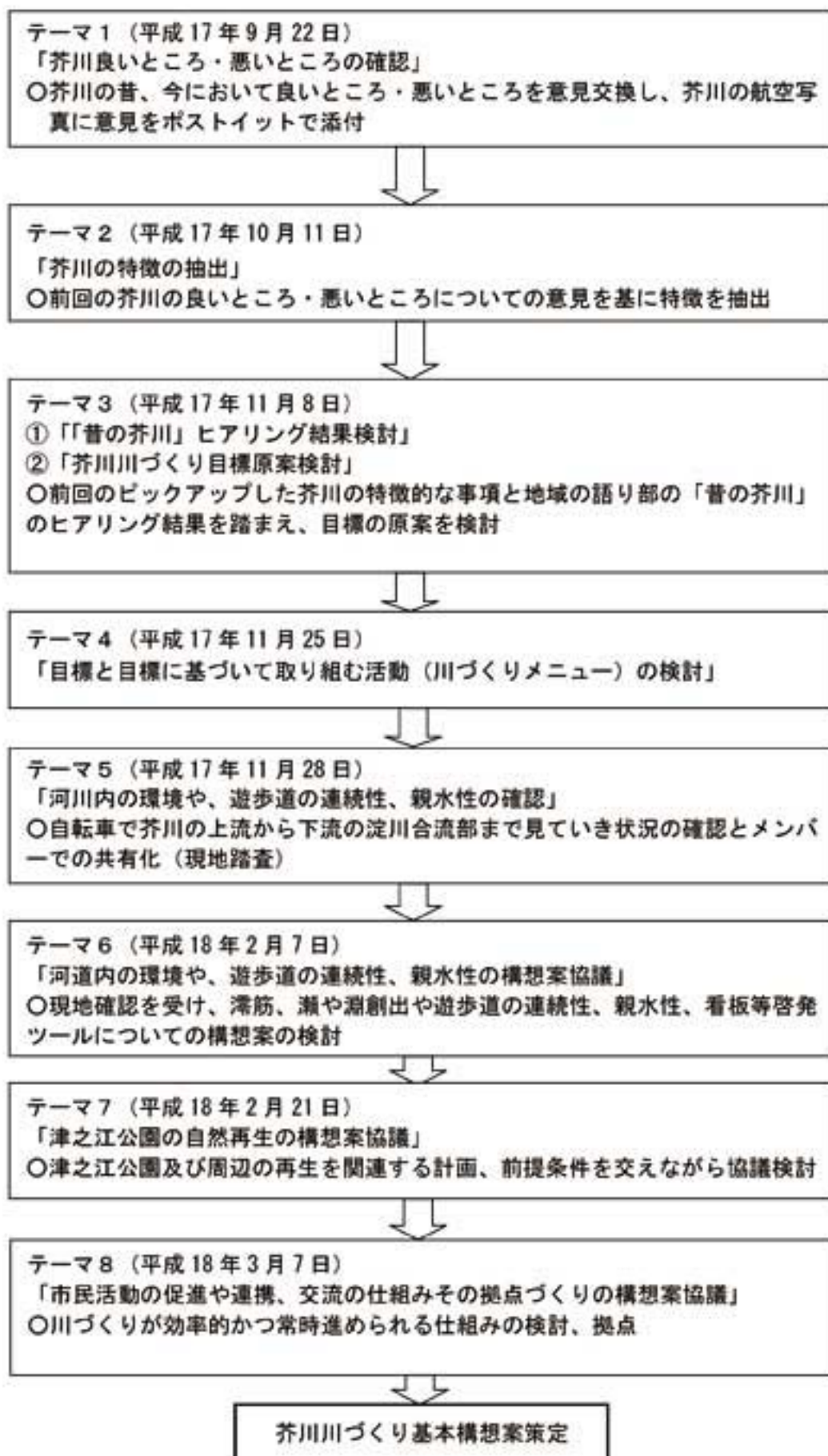
- ・たかつき環境市民会議：田口 圭介（芥川倶楽部代表）、中島 敏明、山崎 文男、
中山 香代子
- ・（社）高槻市観光協会：岡山 雅彦（芥川倶楽部副代表）
- ・nature works：小村 一也
- ・川いい会：石山 郁慧、
- ・高槻シティマラソン常任委員：中川 修一 （敬称略）

- ・大阪府：茨木土木事務所総務企画課、都市整備部河川室河川環境課
- ・高槻市：市長公室総合政策室、建設部道路河川室、環境部環境政策室、
都市産業部公園緑政室、芥川緑地資料館

□アドバイザー

- ・兵庫県立人と自然の博物館副館長・兵庫県立大学教授 中瀬 勲
- ・水生生物保全研究会 紀平 肇
- ・大阪工業大学教授 綾 史郎
- ・大阪市水道記念館 横山 達也
- ・京都大学防災研究所 武藤 裕則
- ・芥川緑地資料館 高田 みちよ （敬称略）

資料④ 基本構想案策定の取組み経過



資料⑤ その他部会等の取組み経過

「ひとと魚にやさしい川づくり」懇談会 (平成 16 年 9 月 22 日)	今後の芥川の取組みについての検討
魚みち部会(平成 17 年 1 月 27 日)	芥川の現状他について
魚みち部会(平成 17 年 2 月 24 日)	魚みちの設計手順、魚類等の遡上等条件他
魚みち部会(平成 17 年 3 月 31 日)	魚みちの概略検討他
魚みち部会(平成 17 年 9 月 8 日)	実験魚道の設置目的、計画等、遡上実験について、落差工周辺の環境整備
魚みち部会(平成 17 年 9 月 28 日)	門前橋下の魚道について意見交換
芥川ひとと魚にやさしい川づくり 第1回委員会(平成 17 年 12 月 14 日)	平成17年度スケジュールの確認、基本構想策定取組み報告
魚みち部会(平成 17 年 12 月 15 日)	JR下流落差工及び芥川大橋上流落差工の魚道について現地にて協議検討
魚みち部会(平成 18 年 3 月 6 日)	JR下流落差工及び芥川大橋上流落差工の魚道について現地にて協議検討
芥川ひとと魚にやさしい川づくり 第2回委員会(平成 18 年 3 月 15 日)	基本構想内容検討、今後の方針

※その他、イベント等の開催において企画会議を約20回行い、論議を重ねてきた。

※芥川ひとと魚にやさしい川づくり委員会、魚みち部会メンバー

芥川倶楽部企画会議メンバー

兵庫県立人と自然の博物館副館長・兵庫県立大学教授 中瀬 勲

水生生物保全研究会 紀平 肇

大阪工業大学教授 綾 史郎

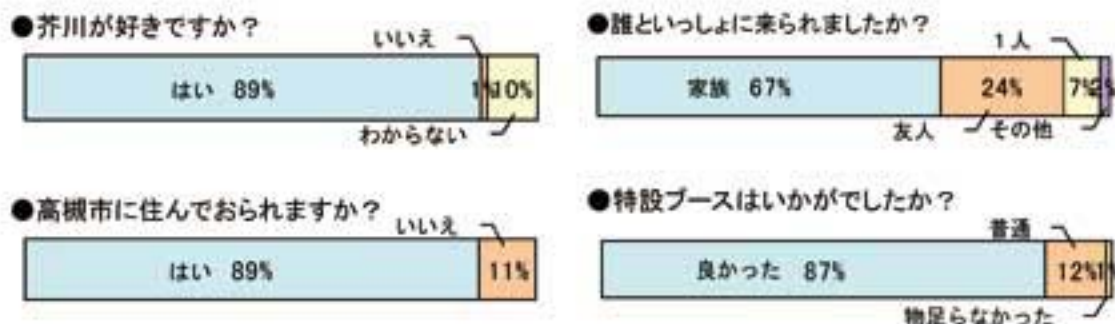
大阪市水道記念館 横山 達也

京都大学防災研究所 武藤 裕則

資料⑥ 活動実績（主なもの）

○「こいのぼりフェスタ1000」にてPR活動（平成17年4月29日（金））
桜堤公園にて毎年開催されている「こいのぼりフェスタ1000」のイベント内の大阪府のブースにて、芥川での取組みについてPRなどを行いました。

特設ブース内アンケート結果（700人回答）



○全国都市再生モデル調査に選定（平成17年6月24日（金））
平成17年度内に全国各地で展開される「先導的な都市再生活動」を、国が「全国都市再生モデル調査」として支援する制度に応募したところ、『芥川・ひとと魚にやさしい川づくり』プロジェクトが選定されました。

○芥川倶楽部設立総会（平成17年7月7日（木）（川の日））
市民・市民団体・学識経験者・行政などで組織する「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」（芥川倶楽部）の設立総会を総合市民交流センターで開催しました。
組織の趣意書を朗読し、その趣旨に則った規約が承認され、同組織が設立されました。



○実験魚みち(門前橋下流)設置 (平成17年10月17日(月))

芥川倶楽部の本格的な取組みの第1弾として、土のうを使った「魚みち」づくりに実験的に取り組みました。場所は、桜堤公園と門前橋の間の落差工(堰)で、高さ約80cm。市民も含めて約50名が参加して、土のう作りからの作業を行い、魚みちが完成しました。完成後魚みち下流部に捕獲した約100匹魚を放流したところ、翌日、約2割弱の魚の遡上がみられ、一定の効果が確認できました。



○「芥川・水辺フェスタ」開催 (平成17年11月20日(日))

芥川緑地資料館(あくあびあ芥川)で、「芥川・水辺フェスタ」と題し、イベントを開催しました。総勢約400名の参加者があり、大学の先生による基調講演や芥川の語り部によるディスカッション、北清水小学校での取組発表、水道部によるきき水、パネル展示など様々な催しを行い、芥川に対する河川愛護の啓発活動を行いました。



○実験魚みち(JR鉄橋下流)設置 (平成18年3月23日(木))

魚みちづくりの第2弾として、JR鉄橋の下流側で実施しました。約1000袋の土のうを積み上げ、高さ約40cmから170cmの落差工に魚が遡上できるような魚みちをつくりました。



○「芥川クリーンアップ」開催 (平成18年3月26日(日))

門前橋から鷺打橋付近までの約3.5kmにわたり、周辺自治会や芥川倶楽部、ライオンズクラブなど総勢約400名が参加して「芥川クリーンアップ」を開催し、可燃ゴミ約2トン、不燃ゴミ約600キロものゴミを回収しました。



○実験魚みち(芥川大橋上流)設置 (平成18年4月8日(土))

魚みちづくりの第3弾は、1番下流にある芥川大橋の上流側で行いました。ここの落差は、約220cmと80cm。実に2500袋もの土のうを、市民も含めた参加者でほぼ1日がかかりで積み上げました。その後、何度かの大雨のたびに魚みちの復旧作業を行い、6月16日には、魚みちの上流に設置した網に体長約13cmの遡上アユがかかっているのを確認しました。



○「こいのぼりフェスタ1000」にてPR活動（平成18年4月29日（土））

昨年度と同様に、「こいのぼりフェスタ1000」において、パネル・水生生物の展示、ペーパークラフト、生物観察会、クイズ大会などのイベントを通じて、芥川の取組みについてのPR活動を行い、市民の方々に広く芥川倶楽部の活動を知っていただきました。



○「芥川案内板」除幕式と特定外来生物駆除（平成18年6月18日（日））

高槻グリーンライオンズクラブと高槻市が協力し、芥川緑地資料館前の河川敷と桜堤公園の2か所に、芥川の自然を紹介した「芥川案内板」と、最近芥川で増えている特定外来生物のミズヒマワリを紹介した2種類の看板を設置しました。また、当日は芥川倶楽部も参加してミズヒマワリの除去作業を行いました。



「天然アユ週上する芥川に」
高槻市民ら倶楽部設立



▲高槻市の芥川にアユの産卵場が設けられた。市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

高槻市が主催する「天然アユ週」が今年も7月10日から16日まで、芥川（高槻市）で開かれる。この週末には、アユの産卵場が設けられ、市民らによるアユの産卵体験が行われる。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

平成17年7月8日
 産経新聞

北摂

芥川に「魚の通り道」
 市民団体が実験中



芥川にアユの産卵場が設けられた。市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

高槻市が主催する「天然アユ週」が今年も7月10日から16日まで、芥川（高槻市）で開かれる。この週末には、アユの産卵場が設けられ、市民らによるアユの産卵体験が行われる。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

倶楽部の発足式は、7月10日（土）の「天然アユ週」の初日、芥川の産卵場で開かれた。当日は、アユの産卵体験が行われ、市民らによるアユの産卵体験が行われた。この機会に、市民らによる「高槻市アユ倶楽部」が発足した。

平成17年11月20日
 読売新聞



平成 18 年 5 月 28 日
朝日新聞

水草のブラックバス

ミズヒマワリ 拡大

強い繁殖力 生態系に脅威

高層 芥川で18日に駆除活動

大阪 北摂

03-5951-1111
03-5951-1112
03-5951-1113
03-5951-1114
03-5951-1115
03-5951-1116
03-5951-1117
03-5951-1118
03-5951-1119
03-5951-1120

平成 18 年 6 月 14 日
朝日新聞

仮設魚道に アユ遡上に

高槻市、高槻川に仮設魚道を設置し、アユの遡上を促進させる。調査の結果、アユの遡上は増加していることが確認された。

高槻・芥川住民ら設置、調査



今秋にも恒久化



高槻市、高槻川に仮設魚道を設置し、アユの遡上を促進させる。調査の結果、アユの遡上は増加していることが確認された。

平成 18 年 6 月 17 日
朝日新聞

○広報啓発活動

機関誌(芥川倶楽部)



ホームページ(芥川倶楽部)

<http://www.akutagawa-club.net/>



○河川環境調査（モニタリング）

・調査地点

淀川合流点～塚脇橋の間における全11地点で実施

・調査期間

平成17年9月13日～平成18年3月8日

・全域の概要

	魚類	底生動物	水際植物	河川環境（水質・水温等）
調査結果	6目10科29種類の生息確認	8綱21目58科106種類の生息確認	33科97種類の生息確認	
結果概要	<p>○確認種の多くは河川の上～下流域に生息するコイ科魚類。</p> <p>○良好な水質を好むカマツヤムキツ、シマトジヨウ等は上流側に偏って分布。</p> <p>○芥川大橋付近の落差工より下流でのみ確認された、ゲンゴロウナハ、コウイゴイ、コウイロコ、ホウ等は淀川からの進入種である可能性が高い。</p> <p>○3月の調査で確認された魚数は少数にとどまり、71等の回遊魚の遡上は、水温が上昇する4月以降と考えられる。</p> <p>○外来種のうち、ブラッカイヌやブルーギルは下流を中心に、カヤハはほぼ全域で生息が確認された。</p>	<p>○ため池等の止水環境に見られる種が多い。</p> <p>○水際に抽水植物が生息する場所では、カイトンボ属の一種やショウジョトンボ、コイトンボ、シオイトンボ等のトンボ類の幼虫や、サカサカイ、モアサカイ等のマサカイ類を確認。</p> <p>○流れが緩く、砂や泥が堆積した場所では、イトミミズ類やヌカ類など、底泥中の潜って生活する種類を確認。</p> <p>○上流の礫底の瀬において、カゲロウ類やカゲラ類、ヒゲラ類等の幼虫や、ゲンジボ以外の幼虫の餌となるカコキも多数確認。</p> <p>○砂が堆積する淀みでは、砂中に潜って生活するモンガロウやシロロウの幼虫を確認。</p> <p>○カサシ等が抽水状態で生育する場所では、アハイトンボ属の一種やコヤマトンボ等の流水性のトンボ類やゲンジボ以外の幼虫を確認。</p> <p>○河口部では、テカヒやモサカニ等の回遊性のエビ・カ類を確認。</p>	<p>○堤外地は、中州や寄州の水際部分に抽水植物が生育。</p> <p>○下流では、ため池等に見られるヒゲマヤ、やや乾燥した立地に生育するササ等を確認。</p> <p>○上流では、河川の上～中流域に普通見られるカサシを確認。</p> <p>○特定外来種のミシマワリはほぼ全域で確認。</p> <p>○堤外地は大部分が草刈等の管理が行われている法面や高水敷となっており、全般的に帰化種の侵入率が高く、都市域の河川の中でもやや高めである。</p>	<p>平成17年9・10月、平成18年1・3月の4回、簡易測定を行った結果、上流と下流での生物の生育に影響を及ぼす差は認められなかった。</p>